

最新ニュースをお届けします！



No.211

ハッピーハローウィーン♪ ～おもちゃかぼちゃに顔を描こう！～



今年もたくさんのおもちゃかぼちゃをご用意できました！
どんな顔にしようかな？ 笑っている顔、怒っている顔、悲しい顔…色々な表情を描きながら、ハロウィーン当日まで楽しんでもらえたらと思います♪
ぜひ、お友達をお誘いあわせの上、ご参加ください。
また、ハロウィーンイベントなどでたくさん必要な方は、スタッフまでご相談ください。

●期間 9月1日(月)～10月31日(金)
10:00～15:00

※おもちゃかぼちゃがなくなり次第、終了となります。

●場所 なかよし動物園

●料金 200円(おもちゃかぼちゃ代込)
※黒・白の油性ペンあります。お使いください。

【問い合わせ】栗山公園案内所 ☎ 72-0706
指定管理者 株式会社たかはしダリア

【最新情報を簡単アクセス】
★栗山公園公式ホームページ
<http://t-daria.com/parktop>



No.39 105年前の角田村「国勢調査」—町史写真資料から

今年は5年に一度の国勢調査(国調)の年となります。国内でこの事業が始まった大正9年(1920)から105年、22回目の調査となりました。国や自治体の行政運営で基本となる「人口・世帯数」などに男女・年齢別、産業別など人口の構造・世帯構成・居住状況など政策反映の基礎資料として、栗山でもこの年から調査が始まっています。町史資料の中にも、栗山で最初の国調となる貴重な写真が2点記録されていました。一点は国調事務室内の作業の様子、もう一点は調査員の集合写真です。

当時の国調では、10月1日当日に煙火が打ち上げられ、各寺院では鐘も突かれ、また、寺院の説教や、学校でも教材を使った家庭への関心を広げました。栗山神社の祭典でも少年団の宣伝隊や楽隊が巡回し、国調への呼びかけをしたと記録されています。写真は栗山での国調事務を担った角田村長を中心に、詰襟や和服姿の村役場職員の姿が写されています。壁に貼られたポスターには「十月一日」の文字に「有のまま申告すること」と記され、黒板には調査事務の概要も読めます。



栗山最初の国勢調査事務職員(大正9年)



YouTubeで
歴史コンテンツ
公開中！



町史資料調査室
☎ 76-7820

9月号で武田義清氏の胸像の建立年を昭和3年と記載しましたが、正しくは昭和5年の誤りです。

南空知消費生活相談室です！

相談室の専用電話ができました！

☎73-7516 ☎76-9550

事例

今月のテーマ「その出会い、仕組まれていませんか？」

マッチングアプリで、アメリカ軍医を名乗る男性と知り合い、結婚を申し込まれ信用してしまった。お金を送るので受け取ってほしいと言われたので了承したが、保険料と送料が必要だと言われ送金した。それから、さまざまな名目で金銭を要求され、合計200万円を振り込んでしまった。結局、相手とは連絡が途絶えた。(70歳代 女性)

POINT!

被害にあわないために

- お金や荷物を受け取るための手数料を求められても、支払ってはいけません。一度支払ってしまうと返金は困難です。
- 本人が恋愛感情や親切心を利用されていると認識していない場合、周囲のサポートが重要です。本人の話を聞き、冷静に対応しましょう。
- 面識のない人からお金の話が出たら、まず疑うことが大切です。

【相談日】

毎週 月～金曜日(祝日除く) 8:30～17:15(商工観光課内 ☎ 76-9550)
※上記の曜日以外の相談は、消費者ホットライン「188(いやや)」へ



収穫体験では鈴なりになったミニトマトに大興奮。

栗山町移住コーディネーター

文：腰本 江里沙

(通称：移住Cコシモト)

暮らし体験日記は『くりやまさとやまらいふ』で公開中！

<https://kuriyama-iju.com/diary/>



第9話「未来への種まき」

あんなに暑かった夏が、まるではるか昔のことのように感じる今日このごろ。夏休み期間に実施した『くりやま暮らし体験モニター』を振り返りました。

今年は道外から3組のご家族が参加。それぞれに小さなお子さんがいて、みなとても元気でめんこい！参加した理由をうかがうと「育児休暇中にいくつか気になる場所を訪れ、移住候補地を見つけたい」「子どもに田舎での暮らしを経験させたい」など、さまざまな思いがあることがわかりました。

滞在中はハサンベツでのホテル観察や収穫体験にお連れし、栗山の自然やそれがもたらす恵

みを体感していただきました。また、「栗山公園が気に入って毎日のように遊びに行った」「栗山の夏野菜がおいしくて滞在中何回も買って食べた」など、皆さん日々の出来事を楽しそうに教えてくれました。最終日に「また来ます！」と笑顔で帰っていく姿を見送りながら、内心さびしさを感じていたのは言うまでもありません。

いつかまた栗山に来てくれると本当に嬉しいですが、たとえそうでなくても、この夏、栗山で過ごしたことを「楽しかったよね」と思い出してくれるといいと思います。